

学校の教育課題解決のための調査・研究を行っています

教育研修部 13:40~14:25

「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る指導に関する調査研究（2年次）  
—対話による探究的な言語活動の視点から—

昨年度から「対話による探究的な言語活動を取り入れることで、個の学びが深まる」と仮説を立て、調査研究を進めています。

1年次は、「対話」を「互いの話を聴き合う場」にするための環境づくりに取り組みました。その際、「教師の問いや言葉がけ」「評価カードによる対話スキルの育成」等の手立てを工夫しました。

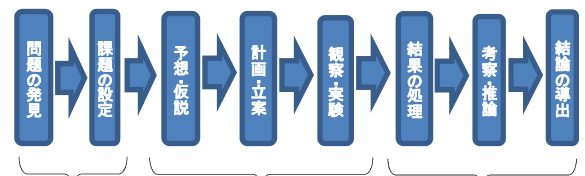
2年次となる今年度は、「対話の質を高める環境づくり」「対話による学びを促進する評価」の2つの視点を基に授業改善を進めています。「対話の場を設定するタイミング」「子供同士の問いを生み出す手立て」「対話スキルを教科のねらいに結びつける振り返り」等の手立てを工夫した授業改善が、個の学びの深まりに有効であったかを子供の発話・発言・記述等を基に紹介します。

科学情報部 14:35~15:20

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習の在り方に関する調査研究（2年次）  
—観察・実験を取り入れた課題解決型学習を通して—

1年次の研究では、観察・実験を含む課題解決型学習の授業観察から、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる要点を整理し、整理した内容が授業改善に生かせることが分かりました。2年次の研究は、整理した内容を生かした観察・実験を通して学びを深めるための具体的な手立てとその効果を明らかにします。また、観察・実験を課題解決型学習で進める学習計画を立てやすくするための「活用ツール」も紹介します。

課題解決型学習の流れ



課題の把握

課題の追究

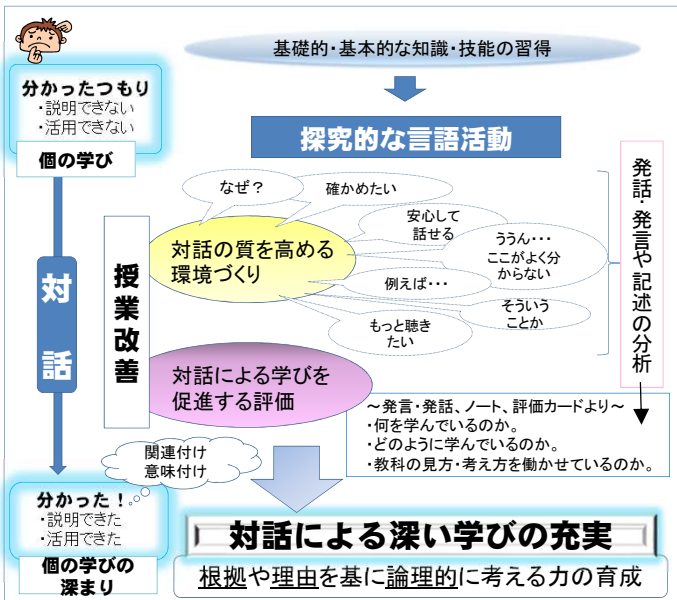
課題の解決

「主体的・対話的で深い学び」へとつながる具体的な手立て

センター+研究協力校（小学校）

観察・実験を通して、学びを深めるための手立てを取り入れた授業実践

- ・授業実践で取り入れた手立てとその効果
- ・活用ツールを利用した授業計画の立案・作成



教育相談部 15:30~16:15

児童生徒の自己適応感を促す心理教育プログラムに関する調査研究（1年次）  
—あるがままの自分を感じるための学習プログラムの開発—

児童生徒を取りまく環境は、社会の急激な変化によって一層多様化、複雑化しています。児童生徒がその環境に適応することにとらわれ、自分の感情にうまく対処できず、自分らしくふるまえない状況があると考えています。自分らしき感じられるように、【からだ】の様子、【こころ】の動き、大切にしたい【かんがえ】を手がかりに、感情に意識を向け、自分に気づくことで自己理解を深め、自分なりの自分を感じる学習プログラムを開発しています。感情にはたらかけることで、児童生徒の自尊感情の安定、集中力の向上、主体的な行動の活性化などの効果が期待できると考えています。はたらかかけの手順やせりふを具体化した短時間で実施できるいくつかのワーク（下表）で構成した「あるがままの自分を感じる学習プログラム（試用）」を使って、研究協力校で取り組みを進めました。この実践を基に、学習プログラムの学校現場への取り入れ方や、先生への聞き取りから検証した児童生徒の変化、先生のはたらかかけへの影響について報告します。

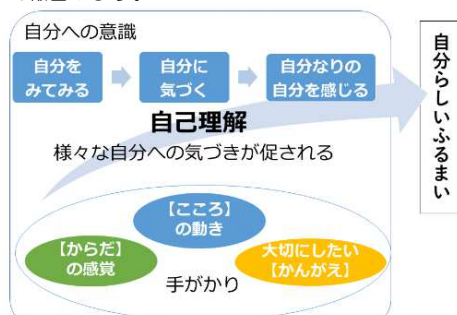


図 自分なりの自分を感じる仮説モデル

表 「あるがままの自分を感じる学習プログラム（試用）」ワーク一覧

手がかり	ワーク名	ワークの内容
からだ	鼻を通る空気を	鼻を通る空気に注意を向け、手に感じる空気の流れから自分の呼吸を感じる。
	胸やお腹の動きを	呼吸するときの胸やお腹の動きから、自分の呼吸やからだの動きを感じる。
	ふうせんに	顔をゆっくり下や前後に動かし、自分の呼吸やからだの動きを感じる。
こころ	こんな気持ちの時は	様々な感情を感じているとき、自分の「からだ」がどんな様子になるか考える。
	考えな—い!	あることについて考えないようにしたり、そのままにしたりして、自分の心の変化を感じる。
かんがえ	100回言ったら	あることばをできるだけ早口で言ってみて、ことばの意味がどうなるかを感じる。
	自分のことを	なりたいたい自分や好きな動き、達成感が得られたこと、好きな言葉、人物について考え、自分のことを見る。